

## 書道と美術工芸で「とうきょう総文」へ 第44回県高総文祭

令和3年度の岩手県高等学校総合文化祭は、6月から12月にかけて、20部門ごとに開催されました。その中で、書道部の田畑おとはさん（2年）が優秀賞、美術部の畠山千陽さん（2年）が特賞を受賞し、来年度の「第46回全国高等学校総合文化祭とうきょう総文2022」へ推薦されることになりました。二人の受賞のことばと作品を紹介します。

### 田畑おとはさん

今回私が取り組んだ作品は、呉昌碩の行草書の臨書です。呉昌碩は中国の芸術家で強い線質が特徴の書であるといわれており、呉昌碩の線質に近づけるよう何度も試行錯誤をしながら作品を作り上げてきました。時には、自分の思い通りに書けないこともありましたが、顧問の先生のご指導や部員の仲間からのアドバイスなどにより、良い作品を作ることができました。また、部活動に一生懸命取り組むことができる環境があつてのことだと思います。ありがとうございます。これから一層自分の作品に向き合い、より良い作品を仕上げられるよう頑張りたいと思います。

### 畠山千陽さん

この作品は私の好きな雰囲気のものを選びました。鳥かごや石膏像、ヘッドドレスなど複雑なものが多く、何度もくじけそうになりましたが、顧問の路奥先生のアドバイスや友達の励ましのもと、何とか完成させることができた作品なので、全国推薦という素晴らしい賞を頂けて嬉しいです。今年度のわかやま総文には、新型コロナウイルス感染の心配もあつて現地に行くことができませんでしたが、来年度はとうきょう総文に行けることを願っています。

